

### お知らせ

- ・ 会員数 31名 (2025年5月11日現在)
- ・ 2024年11月17日に臨時総会を開催いたしました。幹事より、会の現状、新会員制度の導入、下地先生の主宰就任、役員人事等についてご説明するとともに、関連する会則の改正案等について提案し、会員の皆様の承認をいただきました。  
なお、会則については全面的に見直しを行ったうえで、本年の総会で改めて承認をいただく予定です。
- ・ 2024年秋の大会が11月17日に行われました。  
優勝: 伊東勇二 さん  
準優勝: 大石悟朗 さん  
おめでとうございます。詳細は次ページをご覧ください。
- ・ 6月15日(日)に、「ごせんりーぐ」との交流戦を行います。「ごせんりーぐ」は平本弥星プロが主宰する会です。
- ・ 2025年秋の大会は、11月16日(日)を予定しています。また、例年通り秋に合宿を行う予定です。
- ・ 大会等の連絡や、会員特典の棋譜解説等の送付は、電子メールで行っています。アドレスを変えた方や、下地会からのメールが届いていないという方は、幹事までご一報ください。
- ・ 情報交換の場として、LINE グループを開設しています。ぜひご利用ください。

### 下地会 活動内容

- ・ 研究会 第2・4土曜 午後  
有楽町囲碁センター
- ・ 下じょ会 第3日曜 午後  
囲碁サロンじょじょ (高田馬場)
- ・ シンヤ会 月1回 平日夜 (不定)  
囲碁ファースト (市ヶ谷)
- ・ 浦安指導碁会 月1回 (不定)  
浦安市民プラザ Wave101
- ・ 池袋教室 第2・4金曜  
池袋コミュニティカレッジ
- ・ 幽玄の間指導碁 随時
- ・ 下地会ホームページ  
<https://shimojikai.wsfpro.net/>
- ・ 下地先生のブログ  
<https://simojikai.hatenablog.com/>
- ・ 下地会 LINE グループ

### 新年度役員

- ・ 2025年度の役員は以下の通りです。  
主宰: 下地玄昭  
会長: 奥 真也  
幹事: 加藤裕之、野波 俊  
幹事・会計: 長南一豪  
監査: 山崎高康  
役員一同、会の発展に力を尽くす所存ですので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

### 会費納入のお願い

- ・ 2025年度の年会費につきまして、以下の口座に納入いただきますよう、お願い申し上げます。  
賛助会員: 12,000円  
普通会員: 5,000円  
振込先 郵便振替: 00160-8-185033 下地会 または  
ゆうちょ銀行 019(ゼロイチキョウ)店 当座 0185033 下地会
- ・ その他ご不明の点等がございましたら、幹事までお問い合わせください。  
長南一豪 (チョウナンカズヒデ) [jamanindonesia@yahoo.co.jp](mailto:jamanindonesia@yahoo.co.jp)

# 2024年 秋の大会

下地会恒例の秋の大会が、11月17日(日)に「囲碁サロンじょじょ」(高田馬場)で行われました。参加者は17名で、結果は以下の通りです。

長南一豪	九段	×	伊東	○	今井	○	浅井	○	芥川	3勝
伊東勇二	八段	○	長南	○	奥	○	芥川	○	大石	優勝
奥 真也	八段	○	今井	×	伊東	○	加藤	○	平野	3勝
芥川長行	七段	○	佐々木龍	△	加藤	×	伊東	×	長南	
今井 賢	七段	×	奥	×	長南	×	佐々木龍	○	佐々木孝	
佐々木龍男	七段	×	芥川	×	平野	○	今井	○	小林	
浅井八郎	六段	×	大石	○	下川	×	長南	○	古川	
大石悟朗	六段	○	浅井	○	島	○	坂爪	×	伊東	準優勝
加藤裕之	六段	○	平野	△	芥川	×	奥	×	坂爪	
平野高志	六段	×	加藤	○	佐々木龍	○	島	×	奥	
佐々木孝次	六段					×	下川	×	今井	
坂爪寿恵広	五段	○	下川	○	小林	×	大石	○	加藤	3勝
島 勲	五段	○	古川	×	大石	×	平野	○	下川	
下川 滋	五段	×	坂爪	×	浅井	○	佐々木孝	×	島	
古川和子	五段	×	島	○	野波	○	小林	×	浅井	
小林克子	三段	○	野波	×	坂爪	×	古川	×	佐々木龍	
野波 俊	三段	×	小林	×	古川					

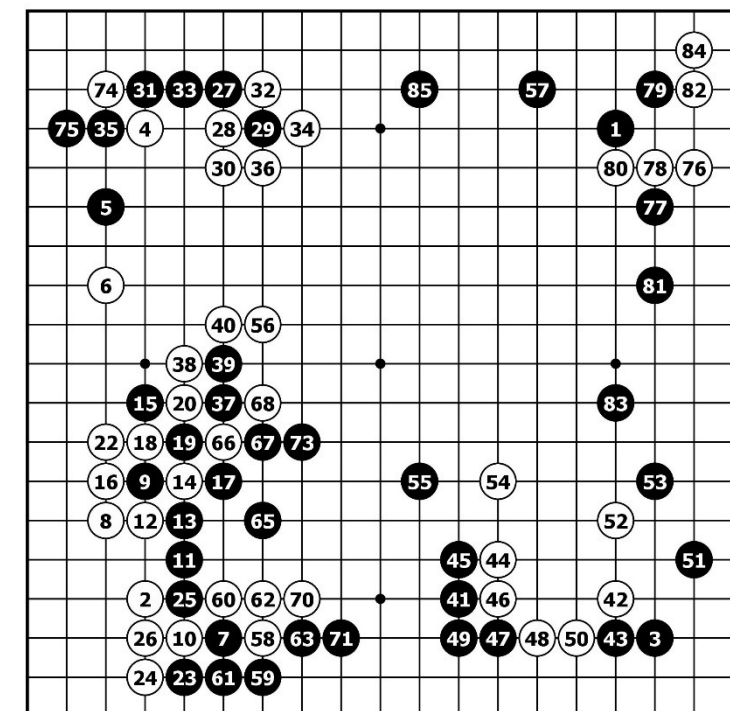


会場を提供していただいた平本弥星先生、および当日会場の準備をしていただいた「ごせんりーぐ」の金納平和さんに、この場を借りて感謝申し上げます。

# 大会熱戦譜

2024年 春の大会 (1~85)

黒：長南一豪 九段 白：関場裕樹 十段 (先)

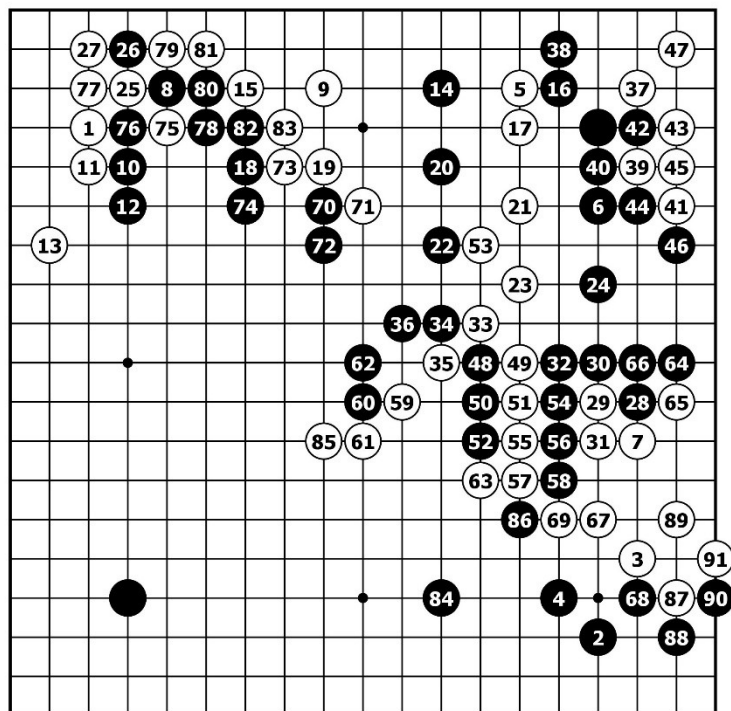


21 64 69 72

- ・春の大会の優勝決定局。
- ・黒11は乙部流とのこと。(乙部さんは特訓教室のメンバーだった方)
- ・白12、14の力強いデギリから未知の折衝に突入。白16アテは重くし戦う意図。対し黒17アテはこの一手。
- ・白20では61にハネてみたい。黒27まで足早で黒ペース。
- ・黒41と大所へ先行して黒優勢。
- ・じつと白56ノビは関場さんらしい。続いて白58は勝負手。黒59は当然。
- ・黒73まで、結果的に黒地が固まった。
- ・黒79は驚きの手。令和になって考えの幅が広がっている。
- ・白82が敗因。ともかく右辺に打ち込んでみたかった。結果は黒6目勝。

2024年 秋の大会 (1~91)

黒：大石悟朗 六段 白：伊東勇二 八段 (2子)



- ・秋の大会の優勝決定局。
- ・黒10カケから黒14打ち込みは積極的。白15一間ツメは要点。
- ・黒18～黒24は名調子。
- ・黒26一本で手抜きは好判断。続いて黒34トビなら圧倒していた。
- ・黒28、30は厳密には問題だが、黒32とノビキリとなつては黒成功した。
- ・白37三々は機略に富んだ策。
- ・数子助ける白53は流石に打ち過ぎ。黒54分断は当然。
- ・白59は65が相場。黒60では7の右にハネが好手で白痺れていた。
- ・白63マゲとなつて頑張りが成功した。
- ・黒86キリが痛烈で黒盛り返している。
- ・結果は白中押勝だが、大石さんの頑張りはお見事でした。



# 下地会いまむかし

## 野波俊さん

(会員の方に、囲碁との関わりや、下地会の思い出などを伺います。今回は、会の最長老である野波俊さんです)

——まず生い立ちからお聞かせください。

私は金沢に生まれて、中3で終戦を迎えました。兄が東大医学部を出て、千葉県佐原にいましたので、両親とともに移りました。兄ははじめ下町の病院に派遣されていました。父も金沢で医者だったのですが、佐原で改めて産婦人科医を開業しました。

兄が、これからは女も資格を取らなければ、と言うので、学校に入って料理や洋裁を習いました。たまたま金沢の幼稚園がカナダミッションで、英語を習っていました。

——それは当時としてはすごいことですね。

ええ。それで特にやりたいこともなかったのですが、幼稚園の先生にでもと思ひまして、女学校卒ではなれないので、東洋英和という学校に入りました。学校に寄宿舎があり、隣にカナダミッションの宣教師の方が住んでいて、面倒を見てくれました。戦争で焼け出された青山学院の方も入っていて、お手伝いなどして楽しい寮生活でした。

——青春時代ですね。

寮には青森や北陸やいろんな地方の方がいました。寮のそばにステンドグラスで有名な安藤教会があって、そこで洗礼を受けて、卒業したら幼稚園を手伝ってほしいと言われてました。実はその牧師先生の奥様が偶然金沢で私の母の後輩で、幼稚園の先生をしていて、私の兄がその奥様のクラスだったんです。

——ご縁があったんですね。

そこで2年間幼稚園の先生をしながら、教会のお手伝いをしていましたが、親が早く結婚しろと言うので、お見合いで結婚しました。24歳の時です。

それからが大変で、姑がいて、都営住宅の四畳半で、ガスも水道もなく、水は井戸で4軒に1つしかなく、空いているときに洗濯です。そこに10年いましたが、主人が転勤でアメリ

カへ行くことになり、やれやれで準備するにもお金がなく、質屋へ行ったりもしました。

——それは意外です。なんとなく野波さんはセレブなイメージでしたが。

とんでもない。何でも知っていますよ。それが34歳の時で、ロサンゼルスに2年いて、その後ニューヨークに5年。家を探すのも大変でした。

——言葉はどうされましたか。

戦時中でしたから、英語は正式には勉強していません。終戦後、新聞紙を綴じたのが教科書という時代です。ですからぶっつけで、ずうずうしいと言うか、全部平気でした。アメリカには3年いて日本に戻り、その後はまたベルギーです。そこでは運転する時は金髪のかつらにサングラスで、日本人とわからないように変装していました。今と違って、何かあっても会社は助けてくれませんから。今考えたらいろんな経験ができてよかったですね。

——囲碁との出会いは。

主人は戦争中に友達とやって知っていました。ビデオを撮っとけ、と言われるのですが、何でこんな面白くないものを、といつも思っていました。

それで42、3歳のころ主人に面白いからやってみろと勧められ、NHK 学園の通信の囲碁講座を受け、国立にある学園に通ったりしました。日本棋院に行ったら30級と言われ、いろいろパンフレットを見たりして、池袋の下地教室に入りました。一緒に入った海老原さんという方が気の合う人で、それがよかったですね。それから40年です。



——同じ教室に40年はすごいですね。

その割には進歩していないのですが。下地先生はわかりやすく優しく教えてくださったのが良かったです。その後下地会ができたと聞きました。池袋教室に10年くらいで、それから下地会に入りました。女性の矢島さんなどと一緒でした。

——当時の池袋教室はどんな感じですか。

海老原さんとはいつも一緒に喫茶店で教室の宿題を解いていました。早く亡くなられて残念でした。現在の会員では、浅井さんは初期のメンバーですね。古川さんも古いです。

多いときは30人くらいで、古川さんや男性の矢島さんなど強い人はクラスが別になり、近くの碁会所に移ったりしました。皆仲良くなりましたね。楽しかったです。

——下地会以外で打たれることはありますか。

主人が生きているときは、主人と打っていました。主人はやっと五段くらいかな。ある時、1目負けて五段になれなかったと、日記に書いてありました。

——下地会は最初は田町でしたか。

そうです。田町の三菱自動車の地下に喫茶室があり、そこの方が碁を打たれる方で、特別に使わせていただいていた。私は春日から一本なので行きやすかったです。いつも終わってから飲みに行くのも楽しかったですね。

その後八重洲、そして今の有楽町になりました。八重洲には兄のクリニックがあったので、前日に荷物を運んでおき、当日大会に持って行ったこともありました。当時は人数も多くてにぎやかでしたね。

——下地会で何か思い出はありますか。

一度、下地会で角館へ行きました。会員で三菱自動車にいた方が退職されて、角館の実家で碁会所を開いたんです。そこで会の人々でお邪魔しました。駅前の旅館に泊まり、そこから碁会所へ行って碁を打ちました。角館には青柳家のお屋敷があって、京都のような古い町並みがあり、空いている日には近辺を散策しました。

翌々年でしたか、主人と再び角館へ行き、またその方とお会いしました。会の皆様にと

言って、お土産に乾麺をいただきましたね。

——話は変わりますが、若いころ呉清源を目撃したそうですね。

はい。私の兄が千葉で結婚式をするというので、その時私はまだ金沢で、今で言ったら高校1年生だったのですが、夜行列車で東京へ行くことになりました。

当時、璽光尊(璽宇)という新興宗教があり、相撲の双葉山や呉清源が信者ということで、世を騒がせていました。その本部が金沢で、ちょうど私の高校への通い道にありました。

夜行で夜8時に出発し、終戦直後でわりと空いていたんですが、富山県の魚津にカーバイドという会社の工場があり、あれは何の火なのでしょう、いつも火が燃えていて、夜になるとはっきりと見えるんです。列車がそこにさしかかったら、私の斜め向かいの席の人が突然「火事だ、火事だ」と甲高い声で叫び出しました。乗っている人はみんなわかってるので、火事ではないので大丈夫ですよと言うのですが、一人で「火事だ」とずっと大騒ぎするので、変な人だと思っていたら、近くにいた人が呉清源という囲碁の有名な人ですよ、と教えてくれました。

——それも囲碁との不思議な縁ですね。最後に、野波さんにとって囲碁とは何でしょう。

そうですね。結局好きなのかもよくわからないのですが、パソコンやらゴルフやらいろんな習い事をしましたが、結局続いているのは囲碁だけです。ケーブルテレビでも囲碁の番組を見たくるのは、嫌いではないんでしょうね。何もしてなかったらボケていたかもしれませんし、今元気なのも囲碁のおかげですね。

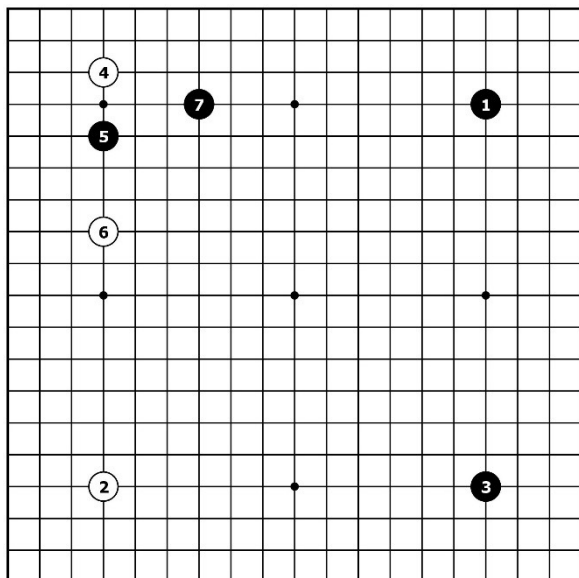
——わかるような気がします。そこまで囲碁が好きすぎないというか、適度な距離感だったのが長く続いた秘訣かもしれませんね。本日はありがとうございました。

(聞き手:長南)



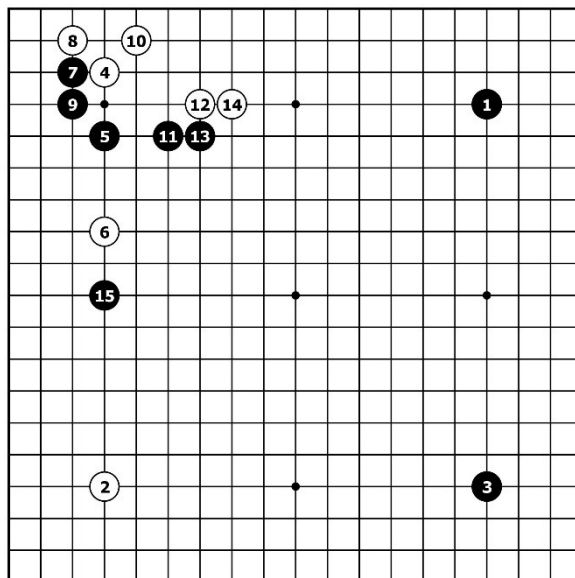
過去に打たれた定石や変化を振り返ってみます。①昭和の定説、②以前と今の下地の見解、③AI の判断を紹介し、比較・検討します。

図1



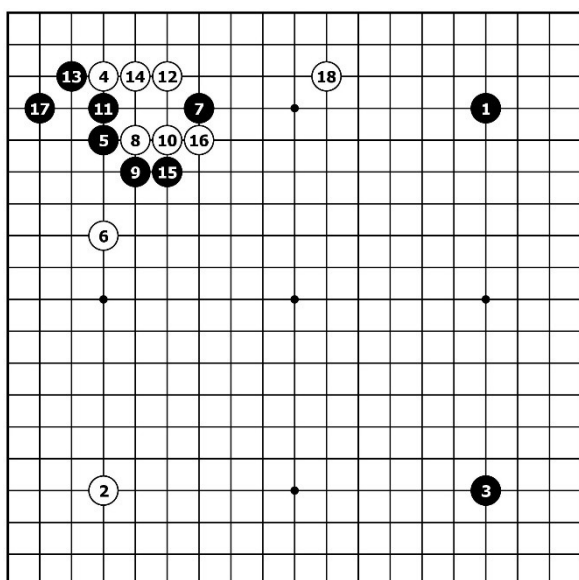
今回は白6の二間高バサミを取り上げます。昭和や平成にこのハサミは頻繁に打たれ、黒7の大ゲイマガケも当然の一手とされていました。「村正の妖刀」と言われる形です。

図2



AI によれば、黒7、9ツケヒキを決めて良いとのこと。白10踏ん張りには大らかな黒11トビから黒13オシー一本決め黒15と打ち込みます。左下に白のある配置では黒が大変だと昭和では認識していたが、AIは黒打てると見えています。

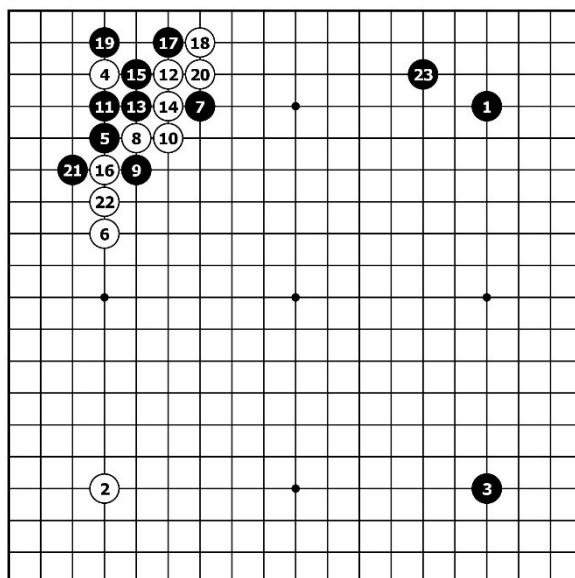
図3



黒7の大ゲイマに対しては白8～白12トビが定番で、以下白18までのワカレが昭和にはたくさん打たれました。

また、シチョウが良い場合は、黒17で隅をサガって頑張る手も研究されていました。現在は全く見かけません。

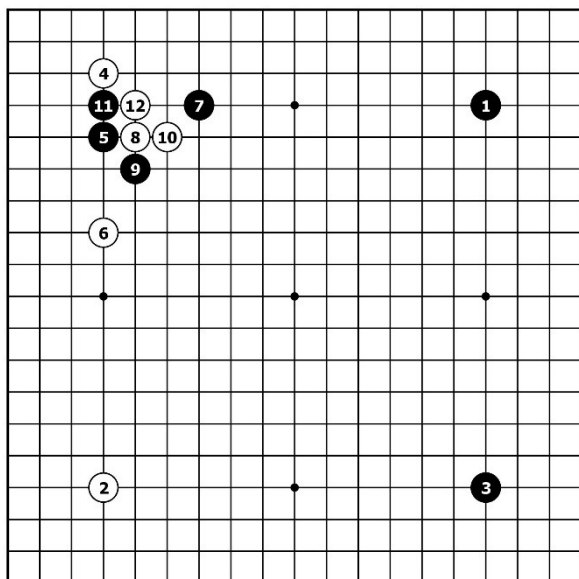
図4



AIが白12には黒13、15と隅を取るのが最適と指摘し、先手で実利を得た黒が良いと評価が変わりました(昔は逆に白良しと判断)。

私もこの形を何局か経験しましたが、黒の実利はなかなかで、切り離された黒も模様消しの場面で必ず役に立ちます。

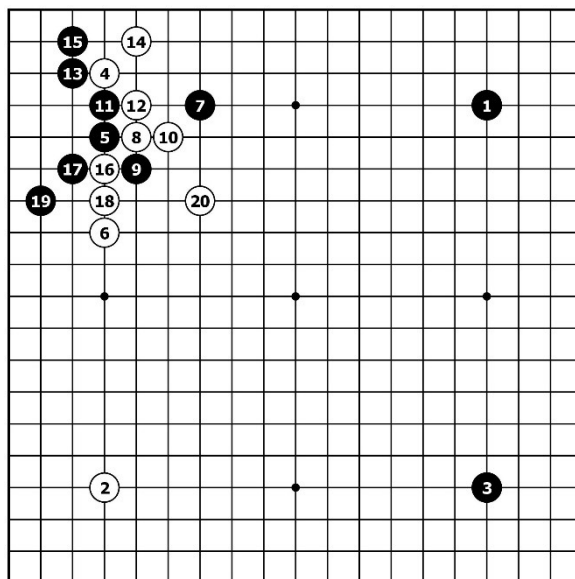
図5



白12のグズミ。形は悪いが黒二目の頭をハネている意味もあり、頑張ったイメージが好きでした。黒はどう対応しますか？

この手は置き碁での勝率は抜群、互先でも使用し、悪いイメージは残っていません。私的には、仮に損でも1目程度と見ていたが、AIは3目損と評価しています。

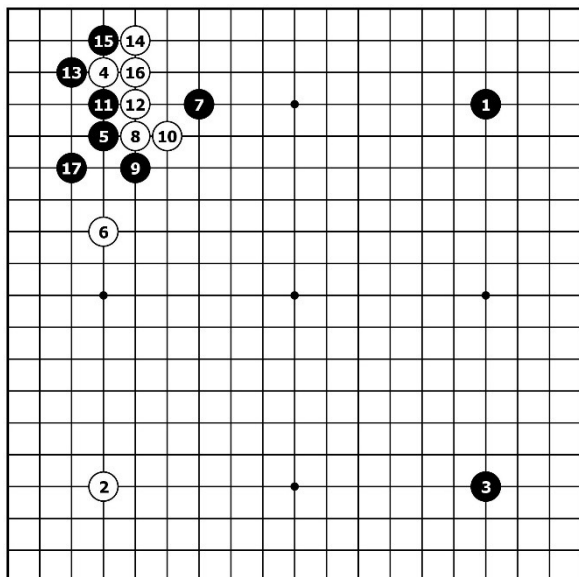
図6



黒13オサエに白14、このカケツギに私は魅力を感じていました。対しAIは黒15サガリを示しました。白16とキりますが、白20と一子真面目に取るのでは哀しい。一方、黒からは上辺ノゾキも利くので活用し易い。納得です。

昭和では、白16キリを許すことは黒が損とされ、誰も疑いませんでした。しかし考えてみると、白はアキ三角を打ったので、黒は切られた1子は軽く捨てて良いのは自然と言えます。

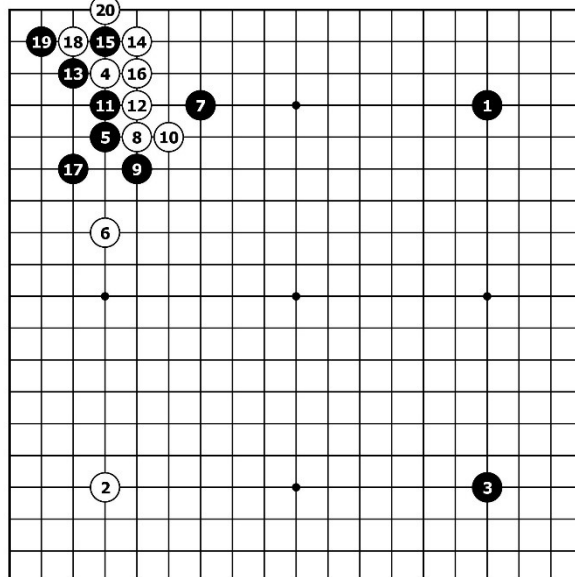
図7



黒15とアテて外をカケツグ。昭和・平成の時代に黒の最善対処とされていました。しかし黒15アテは、隅は一本だけ利益でも、外のノゾキを無くして得とは言えない感じ。

AIは黒15のアテは黒が3目ほど損な手と評価しています。

図8



私が白でこの形が好きだったのは、白20カミ取りの良さの感触です。いずれ戦いになったときその厚さが心強かったから。黒はここで先手取れますが、隅を打つならばカケツギが形で治まりとなります。

この図のAI評価は黒64%、白36%です。それでも黒悪くないが、図6が簡明で最善です。

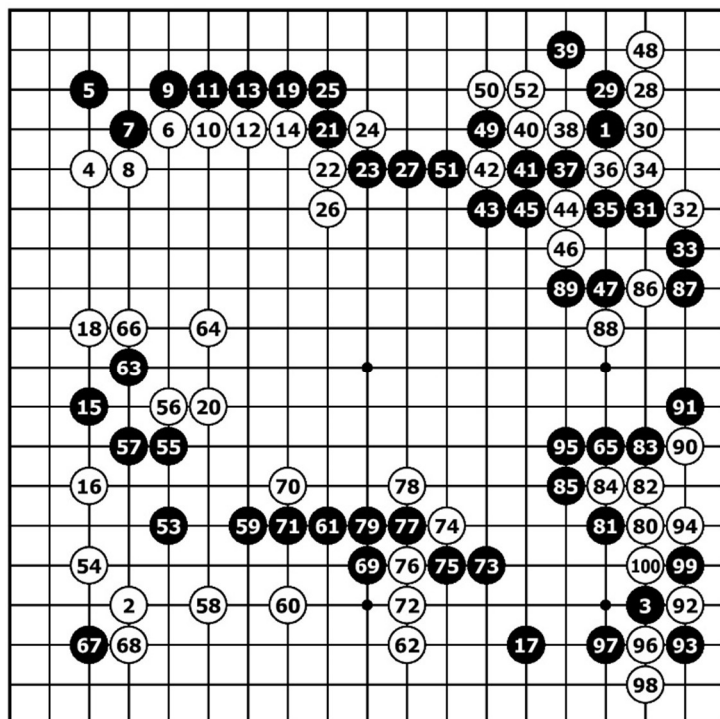
# 下地先生 最近の手合から

碁聖戦予選 C 2025年1月30日

黒: 高山希々花 初段

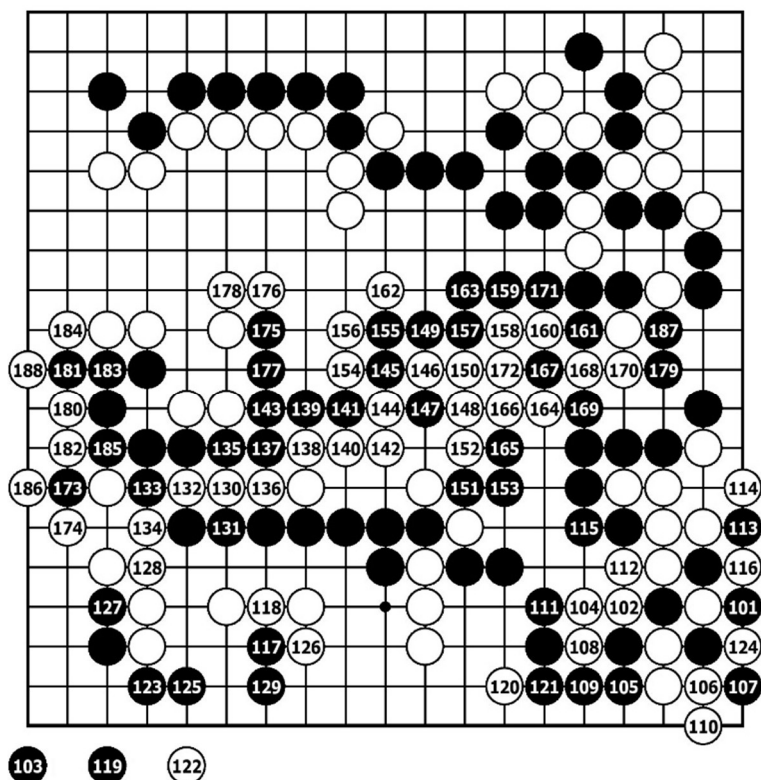
白: 下地 玄昭 七段

## 第1譜(1~100)



- ・高山初段は15歳の新入段者で、私の白番。白4目外しを採用しました。
- ・白14まで定石。黒15ワリウチは好点。白16ツメに黒17シマリは作戦。
- ・白18ツメに手抜きされたので白20は気合。黒の動き出しを期待。
- ・黒21~27まで境界線競り合い。白28三々はこの一手。右上は互角のワカレ。
- ・左辺黒53と手を付けてきました。白56と形を崩し白58と攻め立てます。
- ・白62まで攻めながら地を取る展開は嬉しい。相手は我慢して右辺黒65囲いに回ります。
- ・黒73は模様を最大に広げる頑張り。そこで白80打ち込み敢行しました。
- ・右辺荒らしに向かい、小技や手筋を使って白94マガリ発見。黒95は仕方ないが白96切りで白サバけそう。

## 第2譜(101~188)



- ・結果右辺はコウになり白124とコウを解消。左下生きられたが、右下の利得が大きく白優勢を確信しました。
- ・黒127が先手生きの絶妙手。ここで黒129サガリが敗着。この手で中央を囲ってればヨセ勝負でした。
- ・白130ノゾキは分断宣言。白にも危険多き勝負手で大攻め合いに突入。
- ・難解なヨミ合いが続きましたが、左辺白188のとき相手は投了。一手勝ちには幸いでしたが道中で黒が勝つ可能性は無かったようです。
- ・後悔した手は殆ど無く自分としてはうまく打てた一局だと思います。

(結果は白中押し勝)



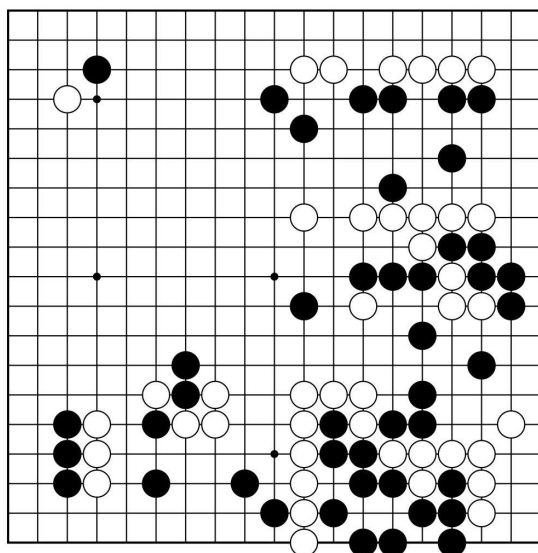
# 下地会 2024 年度下半期ベスト 10

全問黒番、正解は次のページ

2024 年 10 月～2025 年 3 月に打たれた指導碁で、下地先生がブログに掲載したものの中から、ベスト 10 を選びました。次の一手形式となっていますが、「正解」には好手だけでなく、その人らしい手、ユニークな手も含まれます。予想してみてください。

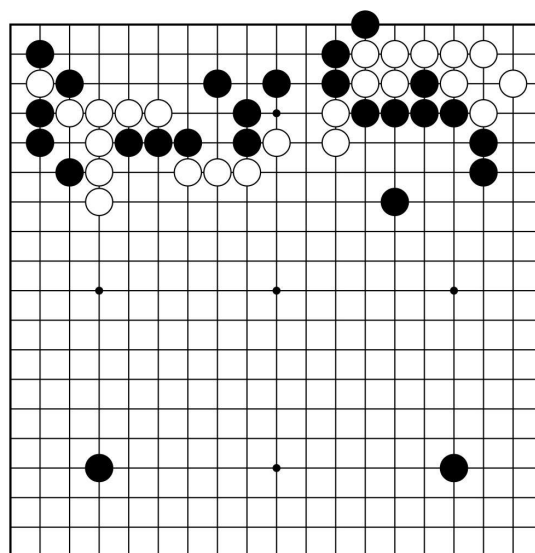
※下地先生・関場裕樹・長南一豪の3名で選考しました。

## 1位 関場裕樹さん(互先・黒)



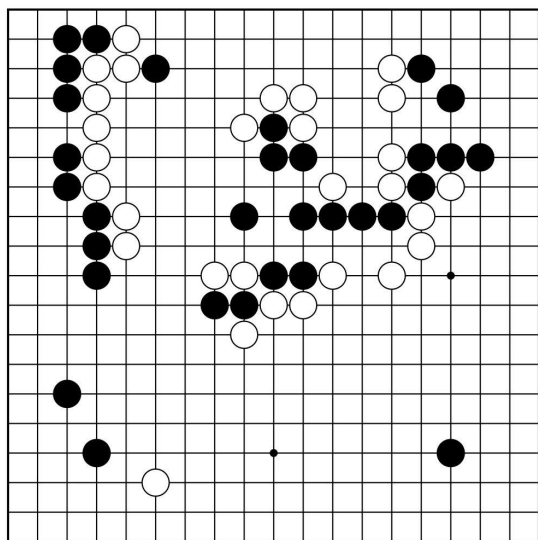
下辺の黒をどうサバキますか。

## 2位 大石悟朗さん(3子)



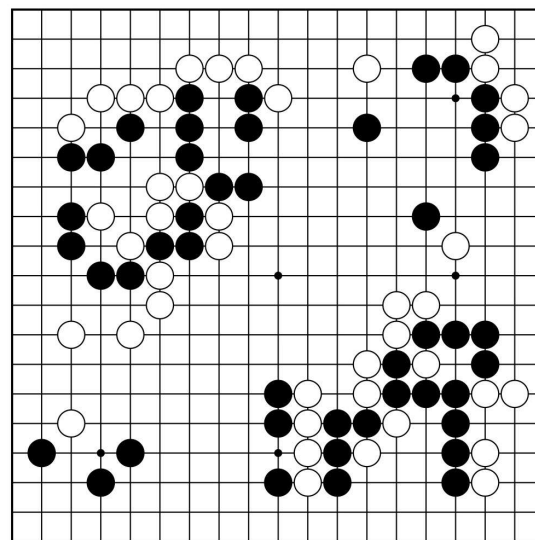
左上は一段落。どこに目を向けますか。

## 3位 大井さん(3子)



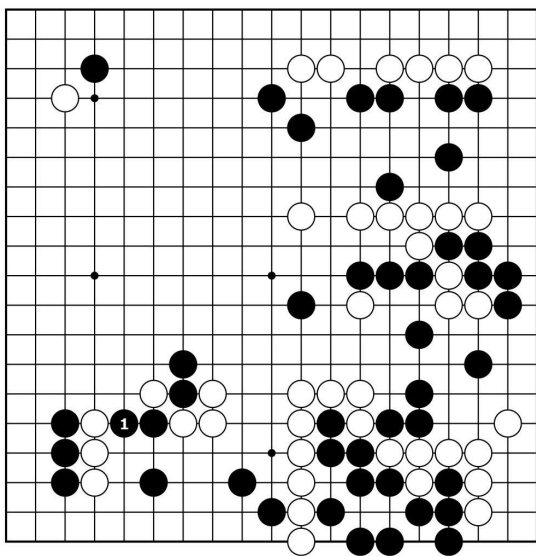
中央の黒が攻められています。

## 4位 野口直平さん(自由3子)



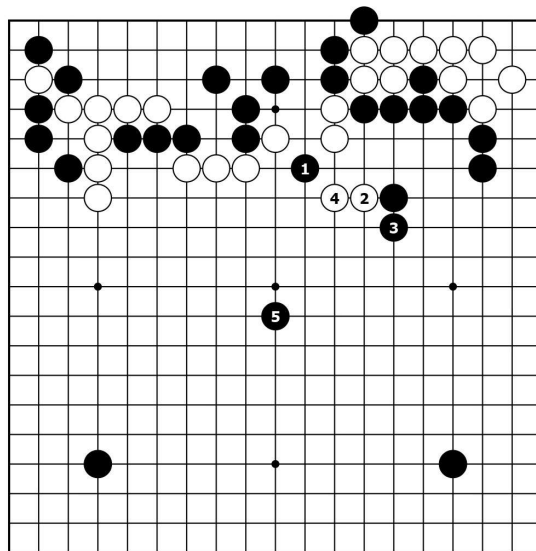
下辺を突破されそうですが。

## 1位 関場さん 正解図



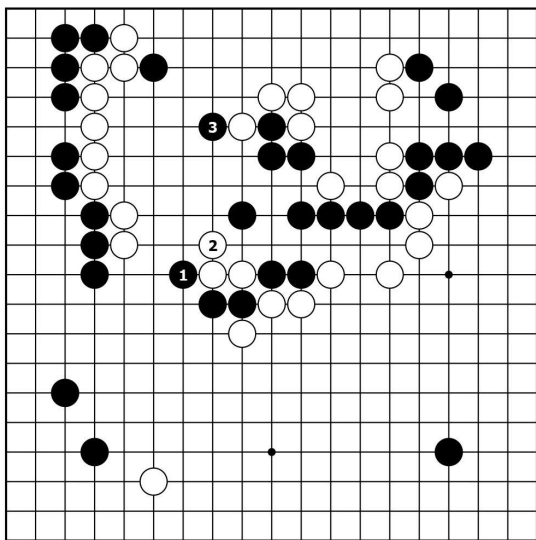
右辺の戦いの後、白が盛り返したと思った場面で、黒1のブツカリが妙手。これは気づかなかった。白オサエには黒再びブツカリで、キリとワタリが見合いです。見事に返されました。(なお左上は誤植ではありません)

## 2位 大石さん 正解図



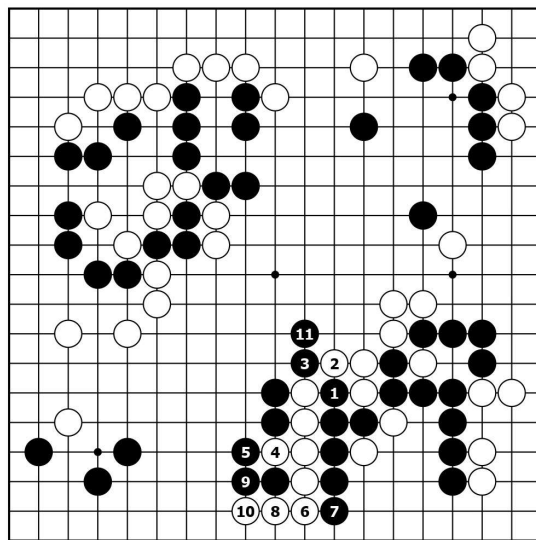
合宿での一局。黒1ノゾキから、あっさり黒3、そして黒5には驚きました。白模様の牽制と右下方面の戦いに役立つとの想いをこめた手です。最善ではないかもしれませんが、リズム感が素晴らしいです。

## 3位 大井さん 正解図



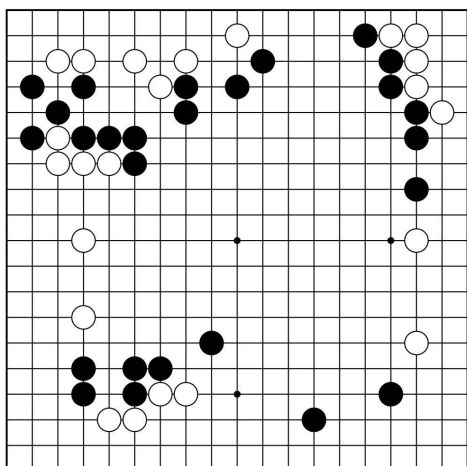
大井さんはシンヤ会に参加されている方。ここまで黒最強手を続け、ややピンチかと思われた場面で、黒1ハネから黒3ツケが実力者の証拠です。これで明快に黒シノギというわけではありませんが、強さを感じました。

## 4位 野口さん 正解図



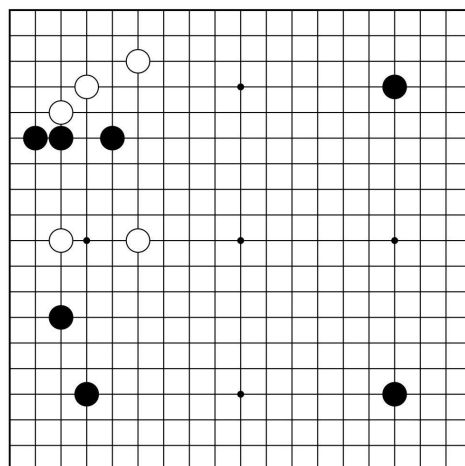
野口さんは下じょ会にときどき顔を出されます。白が調子で下辺を突破しようとした瞬間、黒1・3の分断反撃が素晴らしい。さらに黒11ノビが3子取りと下辺オサエを見合いにした好手。白参りました。

5位 山崎高康さん(4子)



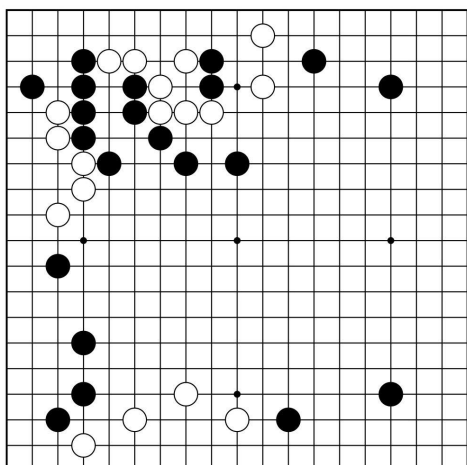
右上ハネツギにどう対応しますか。

6位 佐々木龍男さん(3子)



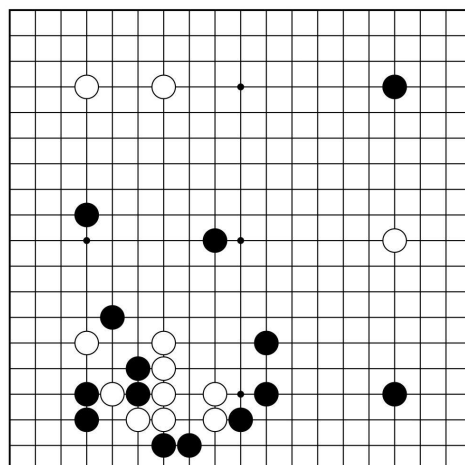
開始早々に飛び出した佐々木流は？

7位 新崎彰宏さん(4子)



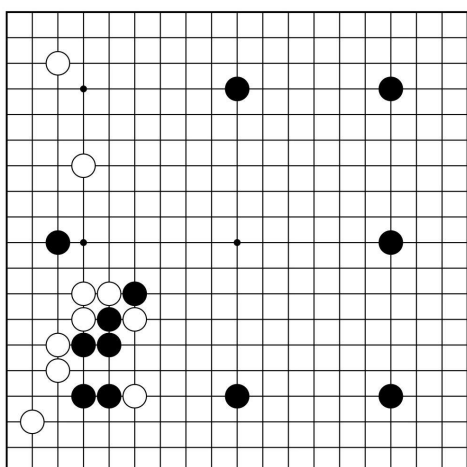
落ち着いた局面。どこに目を向けますか。

8位 奥真也さん(3子)



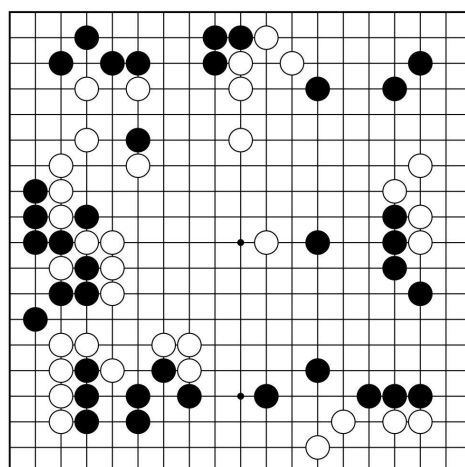
白左下ハネコミへの受け方は。

9位 野村さん(3子)



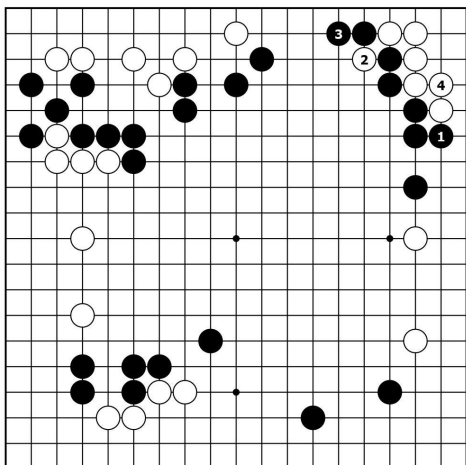
左下にキリが入りました。

10位 加藤裕之さん(3子)



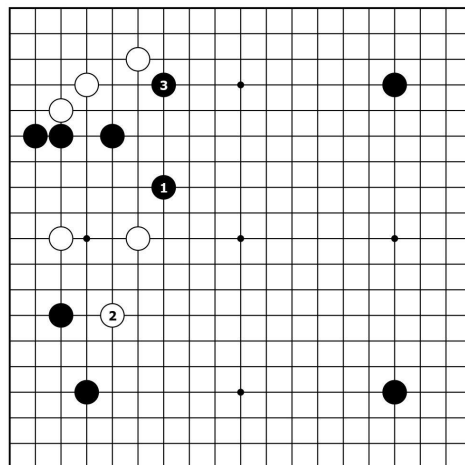
中央の白模様が気になります。

### 5位 山崎さん 正解図



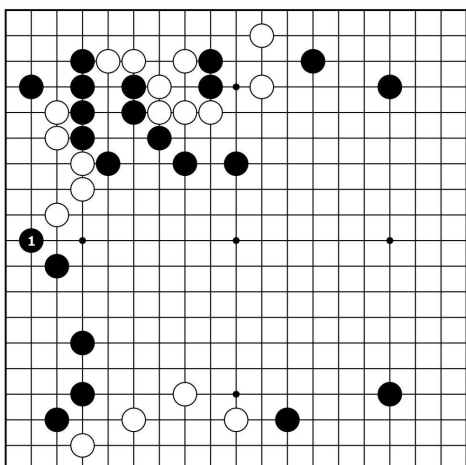
反射的にカケツギそうですが、この形は黒1が好手。キラれても大丈夫です。

### 6位 佐々木さん 正解図



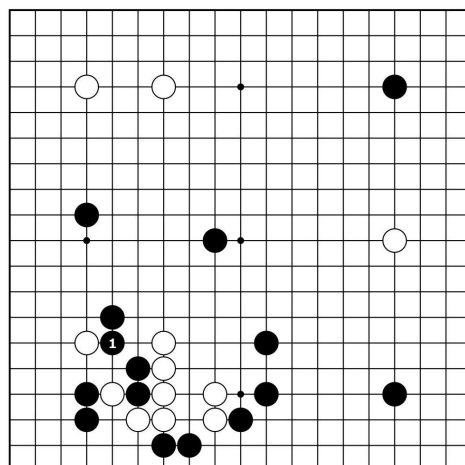
自由な発想の佐々木さんですが、チキルトビ2連発はなんともユニークです。

### 7位 新崎さん 正解図



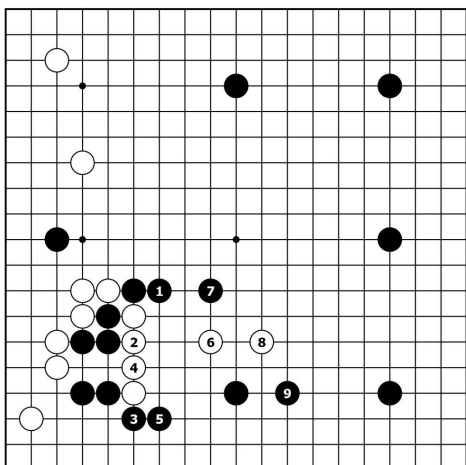
右辺も広いですが、地味ながら黒1コスマイが守りながら攻める要点です。

### 8位 奥さん 正解図



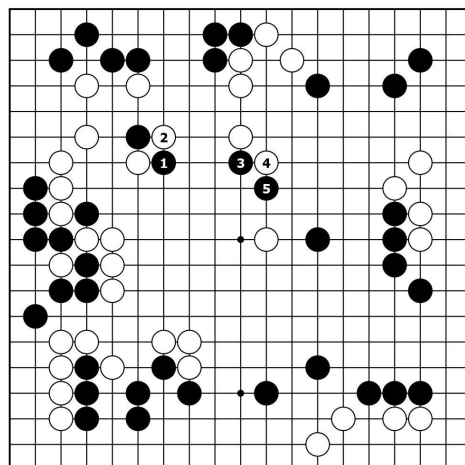
黒1ソイがうっかりしそうな手。白にサバキの調子を与えません。

### 9位 野村さん 正解図



野村さんは池袋教室の方。黒1が的確です。左辺への未練よりも、白の攻めに役立ちます。

### 10位 加藤さん 正解図



黒1～5が華麗。私(下地)が打つようことをされ、白の対応は容易ではありません。